

第 3785 図

かやつりぐさ科



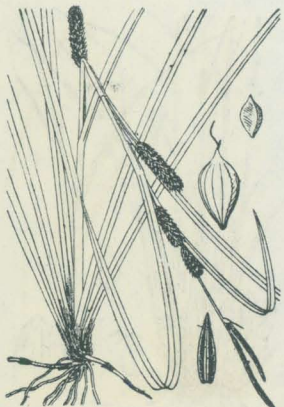
第 3786 図

かやつりぐさ科



第 3787 図

かやつりぐさ科



こかんすげ

*Carex Reinii* Fr. et Sav.

山地に稍普通な多年生の常緑草本。日本特産。稍暗い林下の多湿の傾斜地を好む。根茎は削い強剛で分枝し、屢々群生して地を被う。葉は丈夫な硬い草質で広線形、巾5mm内外、暗緑色で直線的に伸び、地際から開出して立たぬ。基脚の外側には暗褐色の鞘状葉を伴う。5月頃に淡緑色の3稜のある針状の花序を倒れた様に出し、全長にわたって斜上して分枝し、それぞれの頂に黒褐色の硬い長さ3cm程の穂を出す。穂はいずれも雌雄性で、下部1/3程が疎に雌性となるのは特徴。雌花穎は卵状楕円形、果囊は両端鋭尖の3稜楕円体で長5mm、上半彎曲しており、柔かい短毛あり。和名は小寒スゲでカンスゲの草状で小型なるに因る。

あいずすげ

*Carex hondoensis* Ohwi

磐越地方から北陸にかけて分布する多年生草本。草地に生じ、株立となる。高さ50cm内外、全体に淡緑色で柔軟な感じが強い。葉は巾3mm程で、基部の鞘は白味が強いが、その外の鞘状葉は繊維状に破れ褐色になる。早春に花序を抜き、花軸は細くしなやかで上部は彎曲し、各穂は細い柄で垂れ、殊に雌穂は白紫色で光沢があって美しい。雄穂は頂生、細い。雌穂は長さ5cm径5mm程度の円柱形で、雌花穎は卵状披針形で淡黄緑色、先端は長く尖って芒となる。果囊は5mm長、楕円形の本体にそれと同長の長い嘴があり、膜質3稜形、光沢あり。柱頭3で宿存性。和名は会津スゲで同地方に多きによる。

りゅうきゅうすげ

*Carex alliiformis* C. B. Clarke

九州中部以南沖縄を経て遠く台湾にまで分布する常緑多年生草本。根茎は短かく2-3茎を叢生するが、別に褐色鱗を有する稍太い短匍匐枝を生ずる。茎は高さ30cm内外、葉は巾1cmをこえる倒披針状広線形で鮮緑色、たてに3脈著しく生時2稜をなす。茎は春から夏に亘って葉叢中に出て3稜で稍硬い。茎の中部以下の葉は葉鞘が暗赤紫色に染まり、中部以上では雌穂をつけた葉が2cm位の鞘となり、膜質部に同様の着色が著しい。雌穂は頂生1-2、細くて紫褐色、雌穂は3cm長前後、太さ8mm位の柱状、雌花穎は紫色緑背、果囊は超出し4mm長、淡緑青色で乾膜質、脈隆起し、脂状光沢が強い。

あわぼすげ

*Carex nippsinica* Ohwi  
(= *C. Brownii* auct. plur. non *Tuckerm.*)

北海道南部以南の湿潤の草地に産し、支那台湾にまで分布するが比較的稀である。強直な根茎から数茎が緩やかに群生し、茎は高さ30-60cm3稜柱、直立し基部には暗紫黒色の硬い鞘状葉を伴う。葉は茎より低く、巾3-5mm、稍硬い草質で裏は淡緑色、5月頃に茎頂に近く2-3穂を立つ。雄穂は頂生、瘠せて細く、雌穂は円柱形、長さ2cm内外、淡緑色で長い葉状苞あり、また雌花穎の先端の長い尾が穂面から突出してささくれてみえる。果囊は長さ3mmの卵球形で開出してつき、生時淡緑褐色、乾いて暗色を加え、縦すじを有する。先端は急に嘴となる。和名は粟穂スゲでアワスゲと同巧である。

あきかさすげ

*Carex nemostachys* Steudel

印度から南支那を経て日本の関西地方にまで分布する大形の多年生草本で、地上部は半常緑性、池や沼に生じ群落となる。根茎は強剛で多数の茎が直立群生し、又太い匍匐枝を出して殖える。高さ時に1mに達す。全体の形と感じとはカサスゲに似るが、花期がおそく7-9月にわたって穂をつけ、雌穂は汚緑色で褐色化せず、果囊は穎より短かく倒卵形で長嘴を有し、長さ3mm、膜質で突起状の毛を生じている等で区別できる。和名は秋笠スゲで開花が秋にかかるからである。

きんきかさすげ

*Carex dispalata* Boott  
var. *Takeuchii* Ohwi

カサスゲの関西以西における地方型で山間の溪流の畔にはえるが、同じ地方の沼沢には典型的のカサスゲも分布をしている。それに比べて全体として丈低く70cm位まで、葉は軟味あり、茎の基部の鞘葉の紫褐色の色も淡い傾向あり、果囊は淡い緑黄色で、穂に対して開出することなく、直立した上に上部の嘴はむしろ内方へ曲る位であるから雌穂は色淡く且つ瘦せてみえる。柱頭3個は宿存性であるのも異点である。和名は近畿笠スゲで分布地に基づく。

第 3788 図

かやつりぐさ科



第 3789 図

かやつりぐさ科



第 3790 図

かやつりぐさ科

